

第4回南部町立小学校適正規模等検討委員会 議事録

- ◇ 日 時 平成27年3月5日(木) 午後7時00分開会
午後9時00分閉会
- ◇ 場 所 南部町役場分庁舎第201会議室
- ◇ 出席者 尾山幹雄委員 四條勉委員 深澤謙治委員 若林一明委員 遠藤友佳子委員
森田和人委員 佐野よし子委員 萩原敬委員 木内利明委員 国友昭伸委員
望月幸司委員 山本純司委員
若林正昭教育長 青木司学校教育課長 佐野武人主幹 若林将基主査
- ◇ 欠席者 遠藤優一委員 旗持文彦委員 佐野元気委員
資料(アンケート調査結果・手引書)については事前配布。

〔第4回検討委員会開会〕

- ・開会あいさつ 教育長
- ・委員長あいさつ 委員長

① 「中学校統合に係る状況調査」調査結果について

◇ 事務局：資料により説明。

◇ 質 疑

委 員) 悪い影響があるという意見の中に、いじめ問題が増えた、ひとりの生徒が孤立してしまうなどの意見があるが、現状はどうか。

委 員) いじめアンケートを毎学期行った結果に1年生で1件あったが、双方に事実確認をに対応したが、ここに掲載されているような状況ではなかった。

委 員) 不登校の子どもは何人いるのか。

委 員) 1年生が2名、2年生が1名、3年生が2名である。別室登校している生徒、町適応指導教室に通級している生徒、完全不登校の生徒がいる。

委 員) スクールバスの運行について、土日の運行は具体的にはどんな方法か？

事務局) 現在は平日の運行とは違い、旧富河、万沢中学校と南部中学校の間で運行している。これは部活動が旧富河中学校やアルカディアで行われることがあるほか、部活動が休日や町外遠征などもありバス停ごとの乗降計画を立てられないためである。

委員長) 総じて言えば、この調査結果からは統合して良かったという結論で良いと思う。

② 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き(文部科学省)」について

◇ 事務局：資料により説明。

◇ 質 疑

委 員) 手引きは弾力性があると感じる。これを参考に私たちも更に掘り下げて議論していかなければならないと思う。

③ 答申の作成に向けて

- ・小学校適正規模の考察

◇ 事務局から資料により説明

手引書に記載された、学級数が少ない事による課題 14 項目、教職員数が少なくなることの課題 11 項目、これらが原因で児童生徒に与える影響 9 項目、学級における児童生徒数が少ない事によって顕著になる課題 8 項目、学校全体の児童生徒数が少ないことによって顕著になる課題 4 項目について説明。本町の現状と比較した。また、1 学年あたりの学級数、1 クラスあたりの児童数について考え方を示した。

委員長) 手引書には以前から承知していたデメリットもあり、今回、気づいた事項もある。ただし、小規模校のメリットもあることを忘れてはいけない。

委員) 示された現在の考え方に基づいて答申ができれば何も問題はないが、もう少し細かい事項に関わって答申を出した方が良いのではないか。

副委員長) ポイントを絞らなければいけない。適正規模の理想に近づくように町内 1 校にするのか、または万沢と富河というような組み合わせを検討するのか。

委員) 今後の児童生徒数を考えると、現在の 4 地区をまとめても 1 学年 2 学級とはならないのでその点をどうするのか検討が必要である。例えば、万小と富小を一つにする、栄と睦合はどうなのか、または 4 校が 1 つになるのかなどの組み合わせを考えることによって検討しなければならない視点も変わってくるのではないか。

・小学校適正規模についての意識調査の結果について

◇ 委員長から資料により説明

この資料については、アンケートの結果から考察した資料である。私見は差し控えてある。今後答申を作成するにあたり、一石を投じるという意味もある。

委員) 万沢の保護者の意見を聞くと、統合をここでしないと中学校に行った時に対応ができないと考える人もおり、それを理由に町外に引越した人もいる。そういう事実があることも知っていてほしい。

委員長) 住民アンケートの結果に逆らってまで存続を支持するのが適当か、それともアンケート結果を尊重するかどうするか選択しなければならない。

副委員長) 万沢小のことを考えるのか、町全体のことを考えるのかポイントを絞った方が良い。万沢と富河の統合を焦点化してそれについてより良い方向を探っていくのであれば、ある程度前に進むと思うが、町全体で 1 校なり、2 校にするとなるとすぐに結論が出しにくくなる。なので、万沢と富河と統合を第一に考えていくという事で良いのか、まず検討委員会で諮ってほしい。

委員長) 今までの教育委員会では、統合については委員会サイドから提案等をするのはやめよう、地域から意見が出た段階ではじめて検討しようという考え方でやってきた。

委員) 将来にわたって 20 人で 2 クラスできないのであれば、万沢小と富河小に絞って意見を聞いたらどうかと思う。万沢と富河が統合しても、きめ細やかな指導ができると思うので、デメリットを解消するにはそういう方法が良いと思う。

委員長) まずは前回の答申を受けて富河小と万沢小を統合するか否かを検討して、そのうえで更に今後、南部町の子どもたちの人口推計に応じてどう今後対応していったらいいかを検討した方がよいと思うが委員の皆さんの意見を聞きたい。

委員) 焦点化すれば議論も発展するだろう。全体の枠組みを考えると喧々諤々であるから、答申を出した後も再度検討委員会なるものがいずれまたあるという前提で考えて行けば、まず富河小と万沢小の 2 校の枠組みに絞ることで結論は出しやすいと思う。経験

上、万沢小は不安を抱える保護者が入学前に富河保育所に通園している現状があり、その子は万沢小に行かないので、そういう減数もあることを承知してほしい。それだけ保護者の方の不安があるということである。もう一点、万沢小から南部中へ入ってきた生徒がのびのびできていないかと言えばそんなことは全然ない。トラブルもなく楽しくやっていると。ただ、保護者は先々を考えて不安を抱えてしまっていると思う。

委員) 今までの会議からは一長一短があり、また立場上のこともあり即答できない。また万沢に住宅ができ入居者は学校も近いということで入居した人もいるのではないか。現状においては、すぐ統合をすることには不安がある。

委員) 私は、アンケートが統合に対して 60%以上賛成ということを考えて時に、やはり 20 人規模の学級を望んでいる親が多いだらうと思う。しかし、検討委員会での議論ではないかもしれないが少子化を食い止めて行かなければいけないという事が根底にあり、少子化が食い止められなければこの統合議論をしてもあまり意味がないものだと思う。統廃合を考える前に少子化を食い止めていく議論をしたほうがいい。一方、前回までの検討委員会会議と今回の会議が結びついていないような感じがする。もう少し滑らかにできないものか。

委員) アンケートの結果を尊重していく方法であれば、自ずと答えは出ているのではないか。最終的な方法について結論として私は、○委員が言われたように、まずは万沢小と富河小をまずやってそれを議論していくなかで、栄も睦合も考えて行く方法が良い。○委員の発言に賛同する。

委員) 保育所もこの 4 月から統合し一緒になったので、小学校に行ってもまた別々になるのも不自然なので、やはりまずは万沢と富河を統合を検討するということが良いのではないか。

委員) 前回の答申にある、「万沢小学校は平成 25 年度以降さらに減少が予想される場合」という記載してあることやアンケート結果が出ていることから、なるべく早く答申を出した方が良いと思う。万沢と富河は統合を検討した方がよいと思う。

委員) 一年間検討してきたがどちらにして良いかははっきり言えない。その理由として、統合の形が明確でなかったと思う。私たちも、万沢と富河が統合するための話なのか、全町で統合するための話なのかははっきりしていなかった。そう考えるとアンケートに答えた方もその辺が明確だったのかと疑問に思うので、このアンケート結果の数値についてさえ正確なのかと疑問に思った。先ほど統合するはずだったという意見があったが、私は当初からそうは理解しておらず、あくまでもこの検討委員会で決めると解釈したのでそこら辺の思いの違いもあるのではないか。アンケート結果は統合する方がよいという結果で、今後の子どもの数を見ても、統合の方向へ行くだろうなという思いはある。ただ、存続してほしいという人の意見をどう理解していくか、納得をどれだけ広げていくかという事が大切である。アンケート結果のみで判断して良いものなのかという思いもあり、いずれ時間をかけて検討していくことが必要である。

委員長) アンケートの結果が出るまでは、この検討委員会でも半々くらいの意見でしたし、町民の意見が出ないと方向性が決まらないので統合の形も明確でなかった。

委員) 万沢小と富河小を基本に考えている。住民の方が万沢小を残したい第 1 の理由は、地域コミュニティの核としての性格だと思っていたらアンケート結果ではそうではなか

った。そうであるなら、何を軸に考えれば良いかという今通学している児童とその保護者を第一に考えた方が良いと思う。もし私が県外からグリーンハイツに入居したとして、自分の子どもが万沢小に通学するために見学に行き児童が2人しかいないとしたら不安になる。今は車の社会なので、離れた富河小学校に入れた方が楽しそうというのが率直な意見である。

委員長) 核とか歴史とか伝統を重視すべきという意見が少ないだけではない。アンケート結果には「伝統、歴史を守りたい気持ちはあるが、子どもたちにとってそれが一番良い事かというそうでもない気がしてしまう」という意見もあった。また、「地域の核とかという言葉を使ってごまかすのはもう終わりにしてほしい」という意見もあった。

委員) 先ほど言ったように万沢小と富河小の統合を検討した方が良い。まずは、学年3人、4人の学校をどうするか考える必要がある。

委員) 答申では、全町で1校とするのは難しいが、少なくとも睦合小と栄小をどうするか、富河小と万沢小をどうするかを答申に入れなければならないと思う。そして順番としては、万沢小と富河小を先に検討する。管轄は違っても保育所を統合する前に小学校の統合を検討すべきだったと思う。もう統合せざるを得ないという感覚になってしまいます。委員の皆さんがその辺をどう考えるか。教育委員会でもその辺をしっかり対応してほしい。

委員) 小学校と保育所と一緒に考えていかななくてはならないものであった。教育委員会が横の連携を取るべきであった。

事務局) 保育所の統合については保育士の人材がないことも理由となっている。

副委員長) 最初の話から万沢の保護者のご意見が実はよくわからなくて、○委員が言うように存続を求めている人が多いイメージでいた。アンケートでは統合賛成の方が多いがどちらとも言えないを合わせるとあまり数値の違いはない。今回は比較資料もあって、賛成する人が多いことがわかった。答申が出た後、統合の時期を考えた時に当該校の校長が町内の校長でない場合や転任1年目の場合に統合することになるとかなり厳しいことになる。また、存続を望む方たちと協議する期間も必要なので、統合のタイミングは十分に考える必要がある。富河と万沢が統合しても理想的な数にならないが、将来的には2校あった方が切磋琢磨できて良いと思う。その時には学区の見直しも必要である。栄小においては、井出十島の児童の学区の見直しが検討する必要がある。

事務局) 次回は適正規模・適正配置についての案を提示させていただきたい。開催は5月上旬を予定している。

閉会あいさつ) 副委員長

皆さんの意見を集約する中で、まずは万沢と富河に絞るという一つの意見が出ましたので、これをもとに検討していきたい。統合することによって保護者の負担も減る点も手引書には載っていなかったが承知しておいていただきたい。

第4回の検討委員会を終了します。

以上